

講座「ようこそほんご@みどりく」実施報告(2021年3月)

地域日本語教育推進モデル地域(緑区)の取組として、初期日本語教室「ようこそほんご@みどりく」を開催しました。

【概要】

趣 旨:緑区の外国人住民の状況を踏まえ、外国人住民が多く居住する地域において、初期日本語教室を開催した。

日 時:2021年2月1日(月)、4日(木)、8日(月)
 15日(月)、18日(木)、25日(木)
 10:00-11:30 全6回

場 所:緑区霧が丘コミュニティハウス(月曜日)、霧が丘地域ケアプラザ(木曜日)
 (霧が丘複合施設「霧の里」内)

対 象:初級日本語学習者

学習者:7名(インド) 延べ34名

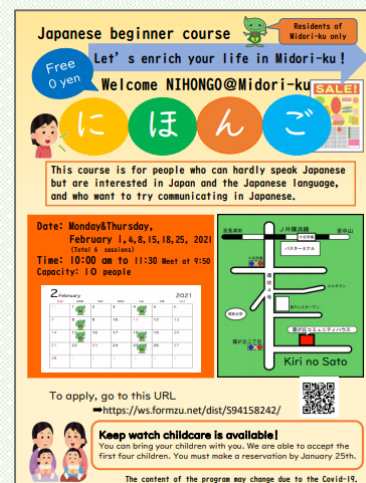
講 師:3名 武 一美氏 (早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師)
 石川 苑子氏 (JICA 横浜 国際協力推進員(外国人材・共生))
 ファムミーリン氏(元ドンズー日本語学校日本語教師)

講師アシスタント:2名 庄 園園氏 (ボイス日本語クラブ)
 陳 霊氏 (ボイス日本語クラブ)

協力者:(教室) 緑区日本語支援教室 5名
 (保育) 特定非営利活動法人グリーンママ
 (教室活動) ボイス日本語クラブ
 (広報) UR 都市機構横浜住まいセンター、霧が丘インターナショナルコミュニティ(KIC)

プログラム内容:

日程	テーマ	学習者
第1回 2月1日(月)	自己紹介	6名
第2回 2月4日(木)	地図を作ろう(地域に興味を持つ)	6名
第3回 2月8日(月)	わたしのおすすめ(町じまん・国じまん)	6名
第4回 2月15日(月)	これからしたいこと(わたしの過去・現在・未来)	5名
第5回 2月18日(木)	これからしたいこと(続き)わたしの好きな○○/わたしのおすすめ(交流会の準備)	7名
第6回 2月25日(木)	交流会(地域日本語教室学習者との交流)	4名



第1回 テーマ「自己紹介」

まずは、オリエンテーションからスタート。学習者の皆さんが教室のルールや講師・スタッフの紹介など熱心に耳を傾けている様子に、これから始まる教室への期待の高さが感じられました。

初回の活動は「自己紹介」。講師のお手本を見た後、グループごとに何回も練習をしました。毎回各グループに地域の日本語教室の支援者が協力者として入り、学習のサポートをしてくれました。学習者それぞれが、自分の言える範囲で自己紹介を練習し、最後はみんなの前で堂々とした発表ができました。



区役所からオリエンテーション



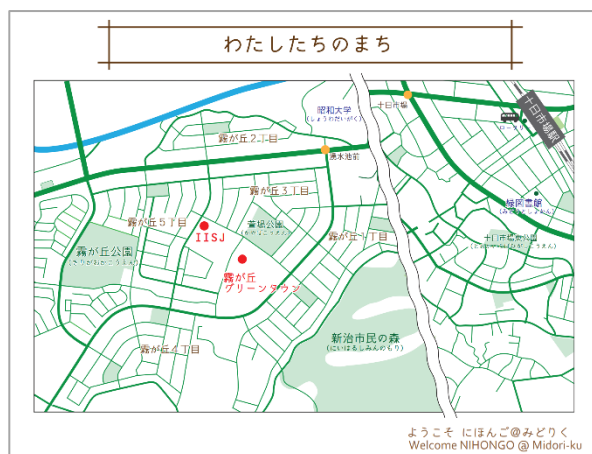
講師の説明を真剣に聞く様子



〇〇です。インドの〇〇から来ました。家族は私と夫と息子です。家族は3人です。私は〇〇が好きです。私は〇〇が好きじゃないです。どうぞよろしくお願いいたします。

第2回 テーマ「地図を作ろう(地域に興味を持つ)」

霧が丘地区にはいろいろな施設、店舗があり生活環境が整っています。そこで、学習者のみなさんが日頃どんなところへ行っているのか、日常の行動を伝えるという目標で学習しました。今回のために作成した霧が丘オリジナルマップを使い、事前に用意した絵カードをそれぞれが配置していきます。中には用意したマップからはみ出す場所のお店もあり、学習者同士情報交換し合う場面も見られました。



オリジナルマップ



第3回 テーマ「わたしのおすすめ(町じまん・国じまん)」

学習をさらに進め、この回では霧が丘の「おすすめ」を紹介しました。「わたしのおすすめはドミノピザです。〇〇ピザがおいしいです。」などそれぞれがおすすめを発表しました。続くお国じまんで、インドの各地方の名産や名所をスマホで見せながら次々おすすめを教えてくださいました。自分が言いたいことを何と伝えたいのか、知りたい気持ちがどんどん生まれて、前回覚えた「日本語で何ですか。」という言葉を使い、講師や協力者にたくさん質問をしていました。



講師のおすすめ紹介



インドの炊き込みご飯ビリヤニを紹介

第4回 テーマ「これからしたいこと(わたしの過去・現在・未来)」

前回練習したことを、「わたしのふるさとじまん」として発表しました。みんなの前での発表にもだんだん慣れてきたようで、日本語も徐々に出てくるようになりました。さらに今回は、過去・現在・未来をテーマに自分のことを話す練習をしました。まず、ワークシートにこれまでの経験や国での仕事、日本に来た今のこと、そしてこれから先どんなことがしたいかなどを(英語も使って)書き出してみました。みなさん、ご主人の日本勤務に伴い来日し、現在は主婦をしている方たちですが、国では仕事に就いていた人がほとんどで、日本での就業意欲が高いこともわかりました。この日は中間アンケートを行いました。日本語学習意欲が高いこともはっきりと表れていました。



おすすめはチキンのフライです。
おいしいです。



カレーという町のコットンタオル、コットンマットが有名です。

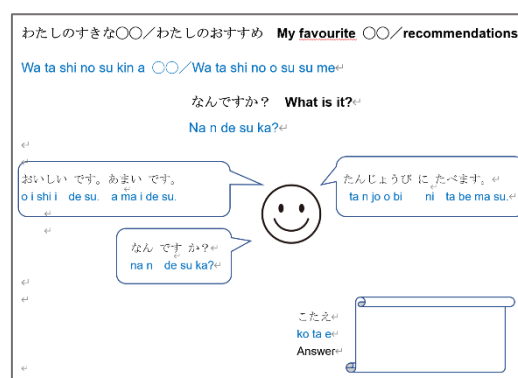
第5回 テーマ「これからしたいこと(続き)」

「わたしの好きな〇〇／わたしのおすすめ(交流会の準備)」

始めに、前回学んだ過去・現在・未来「～したいです。」を使い、これからのことを表現する練習をもう一度行いました。そしてその後は、次回のオンライン交流会に向けての準備をしました。最終回となる次回は、中山にある教室「ボイス日本語クラブ」とオンラインで結び、これまで霧が丘の教室で学習したことを、クイズの出題という形で成果発表します。学習者たちは、まずクイズの答えとなる「自分の好きなもの」を3つ選びました。そしてクイズ作りです。インターネットなども利用しながら講師や協力者に伝え、表現する形容詞などの言葉を確認していました。みなさん熱心にノートに書き留め、一生懸命発音練習などをしていました。

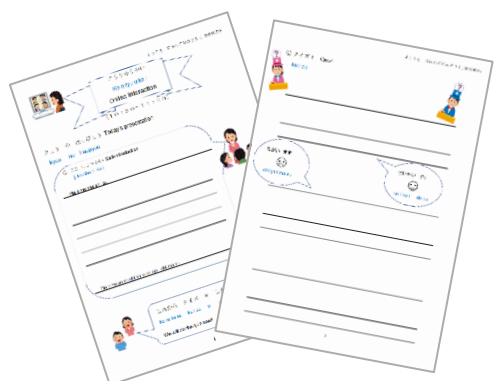


クイズ作成中



第6回 テーマ「交流会(地域日本語教室学習者との交流)」

交流会の前にリハーサルを行い、自己紹介、クイズの出題、相手の答えに「正解です」「違います」などと言う練習をしました。担当講師、横浜市役所、YOKE などオンライン参加の見学者もいる中、交流会は、「ボイス日本語クラブ」からの呼びかけで始まりました。この教室は、霧が丘教室で学習者をサポートした講師アシスタントと協力者の一人が活動する日本語教室です。ボイスの先輩学習者たちの自己紹介が終わると、いよいよ霧が丘教室からクイズの出題です。緊張しつつも自信を持って日本語で話し、オンラインの向こうから来る答えに対して、練習通り「正解です」「違います」などの応答もできて、終始笑顔で楽しい交流を持つことができました。コロナ禍でなかなか大勢での集まりはできませんが、オンラインを活用して、新しい交流の形を作ることができました。終了後は、学習者全員、自分の日本語が通じたことの喜びを感じ、満足感があつたようです。



全6回終了後の学習者アンケート結果

	講座に参加してよかったこと	他日本語教室との交流活動はどうでしたか。
Aさん	「自分」を話すことを学んだ。	交流は初めて、本当によかった。クイズはとても気に入った。とても感謝している
Bさん	日常会話を学んだ。	とてもよかった。楽しかった。
Cさん	この講座に参加して日本語が話せるようになった。先生たちがとても上手に練習させてくれた。	日本語でコミュニケーションをとれてよかった。日本語を話すことに自信が持てた。
Dさん	とても楽しくて学びやすかった。	とても楽しかった。
Eさん	日本人と交流できたこと	とても楽しかった。
Fさん	日常生活で使う新しい言葉をたくさん学んだ。	みんなの前で発表するのは刺激的だった。

講師、支援者、スタッフの声

講師から

・日本語学習への意欲、モチベーションが感じられた。

・限られた語彙であっても、学習者が言いたいこと、伝えたいことを日本語で表現できた。

・名詞、形容詞など文法の導入も少しできた。これも大事だと思う。

協力者から

・豪雨の日にもきちんと参加してくれて、日本語学習への関心の高さを感じた。

・学ぶ目的が明確で、質問も的を得ていた。

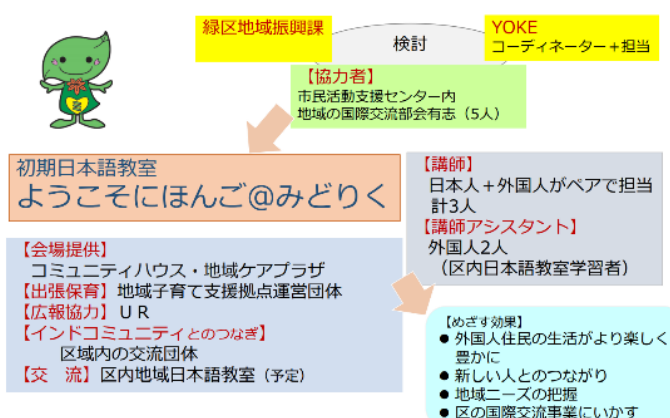
・6回の学習を通して、学習者同士の交流ができたようでよかった。

・感染症対策をしながらであったが、無事に開催できた。

区役所、YOKEから

・日本語を話す自信がついたようだ。この教室をどこかにつなげていきたい。
・交流会で本物のコミュニケーションの場を作ることができた。

地域日本語教育推進モデル地域（緑区）の活動



今回の講座は、学習者を始め、講師、緑区内日本語教室支援者、日本語教室「ボイス日本語クラブ」、NPO 法人グリーンママ等の協力のもと、緑区地域振興課とYOKEが連携して行いました。その他、会場提供や広報協力など各機関、関係者の協力をいただきました。皆様に改めて感謝申し上げます。

報道

「ようこそにはんご@みどりく」の教室の様子が、タウンニュース紙に掲載されました。

掲載記事 タウンニュース緑区版(2021年2月11日号)

<https://www.townnews.co.jp/0102/2021/02/11/561714.html>

緑区版

掲載号：2021年2月11日号



外国人向け

初級日本語教室を開催

地域の人と交流目指す

文化

霧の里で外国人向けの初級日本語教室「ようこそにはんご@みどりく」が1日から開催されている。身の回りのことを紹介できるようになり、地域の人と交流することを目指して、実用的な日本語を学ぶ姿が見られた。



日本語を学ぶインド人

増加する外国人人口

横浜市内の外国人住民の増加に伴い、日本語を学べる環境を整えようと、緑区役所と横浜市国際交流協会が主催している同教室。2月に6回の講座が行われるという。

緑区に住む外国人数は4303人(2021年1月末現在)。16年の1月末に比べて、1267人増加している。

霧が丘にインディアンスクールがあることなどから、緑区に住むインド人は市内他区と比べ突出しており、現在1059人(21年1月末)。

今回の講座の参加者もほとんどがインド人となった。4日の講座には、6人のインド人が参加。3つのグループに分かれ、霧が丘周辺の地図を見ながら、実用的な日本語を学んでいた。

最後には、「私は、月曜日に歩いて霧の里へ行きます」などの学んだ日本語を発表していた。

今後の講座では、自身の住む地域自慢や、自国の国の紹介を日本語でできるようになることなどを目指していく。

最終講座では、ウェブ会議システム「Zoom」を使用して、オンラインで地域の人との交流会も予定している。

交流しやすい緑区に

講座を担当している横浜市国際交流協会の藤井美香さんは「地域とも協力しながら、講座を進めていきたい」と意気込みを見せた。

また、緑区役所地域振興課の伊藤慎吾さんは「使える日本語を楽しく学んでいる様子だ。少人数なので、参加者同士も交流できている。3月7日には、中山に国際交流ラウンジもできる。交流しやすい緑区になれば」と述べた。

講座に参加した、霧が丘在住のソナムクユリさん（30代女性）は日本に来て1カ月。夫の仕事の都合で日本に住むことになったという。日本語はまったく分からないが、「せっかく日本に住んでいるので、日本語を学びたい」と意気込んでいます。講座に対しても「丁寧に優しく教えてくれたので、理解できた」と満足した様子だった。